

総合交通メールマガジン 第13号

平成21年7月29日発行

発行元：国土交通省 政策統括官付 高橋参事官室

目次



退任のごあいさつ

・国土交通省 政策統括官 谷口博文



Column

・室蘭工業大学 田村教授 「地域づくりと交通」



地域の取組紹介

・首都大学東京大学院 吉田助教（山形市を事例として）



Information

- ・富士山静岡空港が開港しました
- ・総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！
- ・地域の取組募集！！



編集後記

退任のごあいさつ（国土交通省 政策統括官 谷口 博文）

衆議院が解散され、中央官庁の人事異動も発表されて、次の政策課題に向けた新しい体制がスタートしようとしています。

このメールマガジンの中心テーマであるモビリティ確保という課題は今に始まったわけではありませんが、特に高齢化や過疎化の進展が目に見えて深刻化してきた今日、移動制約のある人たちの問題はさすがに放置できないところまで来たように思います。この問題への対応策は、考え方としてバリアフリー施策と共通するものがありますが、国土交通省はどうしてもハード面の整備を中心に期待される傾向にあるようです。

しかし道路や線路というハードの上で、パブリックな移動手段であるバスや電車をどのように走らせるかはソフトの問題であり、ソフトがうまく回らずにハードが利用されなければ、施設整備も意味がありません。段差の解消やエレベーター設置も、位置や経路が移動情報としてきちんと伝わってこそ障がい者の役に立ちます。何のために資本投下をしているのかという原点に立ち戻って、交通体系を総合的に議論する時期にきているのではないかという気がしています。

その意味で、総合交通の観点から、ソフトを中心に地域からの様々な情報を発信し続ける意味は決して小さくないと自負しています。今後地域のアイデアが日本全体を動かす原動力になることを期待して、退任の挨拶といたします。

Column

室蘭工業大学 田村教授 「地域づくりと交通」

2008年7月の国土形成計画において‘新たな公’が提案されたように、多様なニーズの全てを公が担うことは難しくなっており、地方自治体、地元の事業者・住民等の様々な地域の主体が合意形成を図り、各主体が責任をもって諸取組を推進する仕組みづくりが必要とされています。

こうした問題意識を踏まえ、室蘭工業大学 田村亨教授より「地域づくりと交通」についてご寄稿頂きました。地域づくりと交通の理想像の実現に向け、交通施策と地域づくりを一体的に検討することの重要性、様々な地域の主体からなる協議会や国が果たすべき役割等について説かれていますので、是非ご一読下さい。

【コラム全文についてはこちら↓】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/0907muroran-univ.pdf>

室蘭工業大学ホームページ：<http://www.muroran-it.ac.jp/>

地域の取組紹介

首都大学東京大学院 吉田助教(山形市を事例として)

地域公共交通の活性化・再生に関する取組が各地で進められており、最近では「成功事例」がメディアに取り上げられることも増えてきました。ただ、その多くは「結果」を報じたものであり、「プロセス」について言及している例はまだ少ないのが現状です。

こうした現状をもとに、首都大学東京大学院都市環境科学研究科 吉田樹助教より「地域公共交通を『育てる』現場から」について紹介頂きます。吉田助教は、山形市北部の明治・大郷地区で、地域住民、交通事業者、市からなる協議会のコーディネータとして活躍しており、週1回の「地域交流バス」(市運営)を週2回の「デマンド型交通」(住民主体)に改善した際の「プロセス」に着目して、ご寄稿頂きました。



協議会メンバーによる運行エリアの検討



デマンド型交通「スマイルグリーン号」の車両

【吉田樹先生寄稿の「地域公共交通を『育てる』現場から」についてはこちら↓】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/0907syuto-univ.pdf>

首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域ホームページ：

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/index.html>

山形市役所ホームページ：<http://www.city.yamagata.yamagata.jp/>

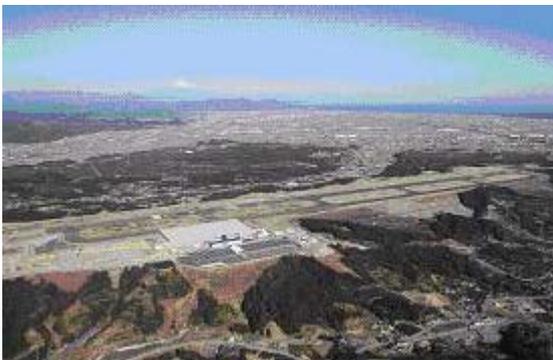
Information

静岡の空の玄関「富士山静岡空港」が開港しました

(静岡県)

6月4日、「大交流」「大競争」時代の静岡県の新たな飛躍の基盤となる空の玄関として、富士山静岡空港が開港しました。

富士山静岡空港の開港により、全国有数の経済基盤を有する静岡県と国内外の有力な地域・都市とがダイレクトに結ばれることになり、地域間の交流が拡大・活発化し、産業、文化、生活等の様々な分野で新しい価値を生み出すことが期待されます。



富士山静岡空港



就航先

【記事全文についてはこちら↓】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/0907shizuoka.pdf>

富士山静岡空港ホームページ：<http://www.mtfuji-shizuokaairport.jp/index.html>

静岡県庁ホームページ：<http://www.pref.shizuoka.jp/>

総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

総合交通メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえて内容を充実させていきたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなど、どのようなことでも構いませんので、ご意見等頂けると幸いです。様式、送付先については、下記URLをご利用下さい。

URL：<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/iken-merumaga.xls>

地域の取組募集！！

当室では、情報提供頂いた取組をメールマガジンで紹介することにより、各地域でノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取組について情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。

【情報提供頂く内容】

例えば、

- ・ 低炭素社会の実現に向け、モビリティのあり方を見直す取組（交通の再編等）
- ・ 公共交通の利便性向上を目指した取組
- ・ 交通の改善により地域活性化を図る取組 など

※ これまでに、推薦頂いたものも含めて30件の取組を紹介させて頂きました。

バックナンバー一覧：

http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



今回の「総合交通メールマガジン」では、**Column**として、室蘭工業大学 田村教授より「地域づくりと交通」についてご寄稿頂きました。田村教授には、前号のメールマガジンで紹介した「地域のモビリティ確保の知恵袋～モビリティは地域の元気の源～」の作成に当たり、勉強会の座長としてご指導頂きました。この場をお借りして、田村教授に御礼申し上げます。また、首都大学東京大学院 吉田助教からは、協議会のコーディネータの立場から、地域公共交通の活

性化の「プロセス」についてご寄稿頂きました。

さて、早いもので、昨年7月に総合交通メールマガジンの発行を開始してから丸1年が経ちました。その間、どうにか月1回の発行を保ちつつ、30件の地域の取組をはじめ、総合交通に関する様々な話題を紹介することができました。執筆にご協力頂いた皆様、そして、メールマガジンの読者の皆様に感謝申し上げます。(T. K.)

【問い合わせ先】

国土交通省 政策統括官付参事官室 メールマガジン担当 小林、近藤

TEL : 03-5253-8111 (内線53-113、53-117)

FAX : 03-5253-1675

E-mail : soukou@mlit.go.jp

URL : <http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/index.html>

